

甘夕
五
日刊
支那時報

福島縣石城郡平町細屋町十四
櫻井兼業行人 同 田 弘 成
印 刷 所 加納活版所
福島縣石城郡平町細屋町十四
發 行 所 筑波時報社
一部金貳錢一ヶ月並爲拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
△日刊 (日曜、祭日) 休刊

野甲翁の三氏が代表として當局を動かす可く上京したが二十四日歸平した木村清治氏は語る。

先づ本縣選出八田代議士紹介に俟つを以て最も便利なりとし廿一日ステーションホテルに同氏を訪問したる處折悪く不正ごつとり三元本縣知事に

浮世の珍談

○○○○
讀者論壇
○○○○
共同的戰線に立て
○○○○
静岡にて 木田生
○○○○
(三)
○○○○
或人は言ふ、常磐炭田は今後
○○○○
働い

浮世の珍談

ガガニ十年間

豫算決算は 委員會に附托 けふ附帶事項をも併せて

八、九、十、十一は豫算決算
十二、町稅賦課徵收方法中改正
の件
十三、吏員給料支給規定中改正
の件
十四、小學校授業料徵收規程中
改正の件
平町民にして公費の救助を受
けてゐる同一戸籍内に在る子

不在が多かった元本縣知事はして現に勅選議員たる研究會の宮田光雄氏と永平俱樂部に會見懇談の結果同氏は將來の努力を快諾したので諸種の事情から第一次の運動は之を以て打切歸郷したが、同法案の委員中には政友會總務たる出口恒太郎氏或は元大藏省銀行局長で高知縣選出の政友會代

郡杉妻村大字清水字西龍一七番てゐる内同人を産み暫らく地生れ中山一(二)は本年壯丁にして置いたが同人が十二歳に達してゐるが未だ本籍役場から何等の通知書が達して居らぬので此程本籍役場に照會しに屋はれ今日に及んだものと戸籍謄本を取り寄せた處、謄本には

、無籍
二才の
ので學
松月堂
のであ
の變更
にく二
たと
日本中、指折の大都市と成るは火を見るより明かなりと證言せらるゝ是於而歟將來大平
市の實現を一秒間なりとも早

議の平町會は二十五日午前十時
町役場に開き昨報した豫算並に
大正十四年度決算は委員會に附
托し二十七日午前十時再び本會
議を開いて附議する事とし、豫
算に關する附帶事項として左の
諸件を協議した。

▲ 縣稅營業稅附加稅 同百分
の八十

▲ 縿稅雜種稅附加稅 本稅は
百分の八十九、月稅は百分の
七十、日稅は百分の六十、遊
興稅は百分の七十

▲ 特別稅戶數割 一戶平均二
十一圓十八錢

五 土木費繼續年期支出方法變
更の件

電柱は一ヶ年五十錢、鐵柱は
一坪に付一圓を徵收す 但し
店頭裝飾に用ふるもの又は公

議士小野義一氏等もあるの下運動上多大の便宜あり引續き此方面をうごかし初期の目的達成につき最後まで努力する覺悟である。

十五番地に於て私生子女出生は最近の珍談である。
母中山ふく届出大正八年九月
廿四日磐崎村長佐川糸之助受
付同月廿六日送附入籍
とあり同人母中山ふくは磐崎村
爺 や
「みちのく會」
諒闇第一期喪が明けた舊
になつてから百人一首が
が大流行を極めてゐるが
に勿來町地方では、青年
「みちのく會」を組織し各
から選手を招き孟獲習と

（促進せんには前述の如く外型的には附近農村の振興を間接論は稿を改めて追て論及す）内型的のは先づ第一百尺竽頭一歩を進め町民の精神的向上を涵養すると同時に、商店は商略の共同一致改革の一歩を先きんじられたるは一歩を先きんじられたるに平町民の各位が此の共同の行なふるたる正月が殊等が方面

商業學校の授業料從來平町居
住者二圓を二圓二十錢とし平
町外の通學者二圓五十錢を二
圓八十錢とする

二、縣稅營業稅雜種稅附加稅不
均一賦課の件

三、特別稅戶數割條例設定並に
特別稅戶數割施行規則設定の
件（二右平均二十一圓十八錢）

六、土木費縣費補助申請の件
平町南町裏幹線及支線道路改
修工事費として補助を申請する事
七、町有土地賣却の件
平町鍛冶町十五番地内二十七坪三合二匁を賣却し土木費中
に充つ

更の令
店頭券
用のための占有は徵收せず
十七、區長選定の件
十八、町道中縣道編入申請の件
平町田町から搔槌小路まで百
七十一間、並に搔槌小路から
八幡神社前まで二百九十間を
縣道に編入するやう申請する事
事以上

内郷村大字宮字平太郎居住田村
郡巖仁村生無職高橋喜太郎（七
五）は二十三日午後一時頃同村
字蛭子七十番地内畑の西際に於
て縊死を遂げてゐたのを翌二十
四日午前七時頃磐城炭礦労務課

部に偏してゐるため相馬・双葉の兩郡では不便だから富岡町に移轉して貰ひ度いと持ち出したが、同組合の定款によれば、案の決議は總議員の三分の二以上
の同意を要す事になつてゐるか
▲少年の惡事　内郷
坂鍛治職小林眞一（十八假
び高坂坑后山夫渡邊芳松（
假名）は去月二十九日午前

銀行法案に關して
宮田氏等に奔走を依頼
目的達成に飽迄努力する

目的達成に飽迄努力する
平銀行・木村清治氏 謹

今議會に提案される銀行法案は、
を欠いてゐる。

▲營業収益税附加税 本税の
百分の六十

▲鑛業税附加税 鑛業税は本
税の百分の十、試堀同は百分
の三、採掘同は百分の七

▲県税家屋税附加税 本税の

今議會に提案される銀行法案は
公稱資本にのみ拘泥し現在拂等諸点から見て各地ともその法
込済資本の多寡に注意を拂は案成立を愛へられてゐるが、石
す且つ増資上地方銀行と都市
銀行の合併によつて地方の農城銀行組合でも之の法案を喜ば
業資金が都市の商工資金として既報の如く平銀行木村清治、
て吸收する場合等に關し顧慮磐城銀行草野順平、磐越銀行中
を欠いてゐる。

家人の隙を見て縊死を企てた者で死体を寅吉に引渡した。木炭組合移轉物にはなるまい

▲岡部氏講演 平町では山夫山口一（十七）は二十三日午後六時から同町元郡前一時卅分頃磐城炭礦第二坑衛に開き岡部平税務署長の營業北八坑附近で高橋正四郎、喜右衛門等と採炭作業中落石に負傷を負ひ手當中死亡した。

礪后 晶の亦大帝市民は此の神聖にして壯嚴なる大帝國の組織をして階級的抗争より淨化せしめて萬事に共同的團結心の結合をモットーとして一日も早やく大平市制の實現を見ん事を期して止まぬ、あへて平町民の覺醒と努力を望む。

